

令和元年度 第二大江学園 自己評価

実施期間:令和元年 11月18日～11月29日

対象:第二大江学園職員(非常勤含む)52名

評価方法:直接記入(記名)

配布:52

回収:52

※令和元年度自己評価については、集計後全体的な考察(別紙)

を行い、以降の取り組みに繋げること。

確認後押印				

令和元年度 第二大江学園 自己評価

【 集計 】

理念・基本方針		評価			
1	理念と基本方針が明文化されている	30年度	A	B	C
			47	2	0
		元年度	96%	4%	0%
			50	1	0
		98%	2%	0%	
比較・考察		+2%			
2	理念と基本方針が利用者・職員に周知されている	30年度	A	B	C
			33	12	4
		元年度	68%	24%	8%
			38	12	1
		74%	24%	2%	
比較・考察		+6%			
事業計画の策定		評価			
3	中・長期的な計画を踏まえた事業計画が策定されている	30年度	A	B	C
			40	7	2
		元年度	81%	15%	4%
			38	11	3
		73%	21%	6%	
比較・考察 ○策定はされていない。 ○中長期的な計画が毎回わかりません。		-8%			
4	事業計画の策定が組織的に行われ、利用者・職員に周知されている	30年度	A	B	C
			26	17	6
		元年度	53%	35%	12%
			26	22	4
		50%	42%	8%	
比較・考察		-3%			
管理者の責任とリーダーシップ		評価			
5	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している	30年度	A	B	C
			36	13	0
		元年度	73%	27%	0%
			39	13	0
		76%	24%	0%	
比較・考察		+3%			

低水準

6	業務の質の向上や、効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している		A	B	C
		30年度	24	24	1
			49%	49%	2%
		元年度	32	20	0
63%	37%		0%		
比較・考察	○有事のマニュアルを新しくして欲しいです。しましょう。 ○働きやすい環境整備。		+14%		
7	管理者は、利用者またはその家族の意見や要望を聴く場を設けている		A	B	C
		30年度	46	3	0
			94%	6%	0%
		元年度	48	3	1
92%	6%		2%		
比較・考察			-2%		
8	管理者は職員の意見や要望を聴く場を設けている。		A	B	C
		30年度	38	9	2
			77%	19%	4%
		元年度	39	11	2
76%	20%		4%		
比較・考察	○大江学園、第二大江学園に関わらず、施設長は現場から離れすぎず、利用者や職員としっかり向き合っている。		-1%		
人材の確保・養成			評価		
9	人事考課が客観的な基準に基づいて行われている		A	B	C
		30年度	30	18	1
			61%	37%	2%
		元年度	30	20	2
58%	38%		4%		
比較・考察	○人事考課の結果がフィードバックがされていない。フィードバックがなければ完結していないのではないか。 ○どのような基準かわからず、知りたい。 ○同じものが長く使用されている。 ○人事考課は行われているが、客観的ではないと思う。		-3%		
10	必要な人員や、就業状況を把握し必要に応じて改善する仕組みがある		A	B	C
		30年度	31	18	0
			63%	37%	0%
		元年度	33	18	1
63%	35%		2%		
比較・考察			0		
11	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。		A	B	C
		30年度	43	6	0
			88%	12%	0%
		元年度	39	11	1
77%	21%		2%		
比較・考察			-11%		

低水準

		A	B	C	
12	職員の教育・研修が計画的に実施され、定期的な見直しも行われている	30年度	43	5	1
			88%	10%	2%
		元年度	44	7	1
			85%	13%	2%
比較・考察	○一人一人というよりも、経験年数に応じた対応をされている。 ○見直しについて不明。	-3%			
13	実習生の受け入れと育成を、積極的に行っている	30年度	44	5	0
			90%	10%	0%
		元年度	49	3	0
			94%	6%	0%
比較・考察		+4%			
14	職員が支援等に関する悩みを相談することのできる体制を整えている	30年度	A	B	C
			39	9	1
		元年度	80%	18%	2%
			50	2	0
比較・考察		+16%			
安全管理			評価		
15	災害時・事故・感染症等の緊急時における、利用者の安全確保のための体制が整備されている。	30年度	A	B	C
			36	13	0
		元年度	73%	27%	0%
			45	7	0
比較・考察	○緊急時(夜間)の対応について、改めて確認、周知が必要だと感じる。	+14%			

地域との交流と連携		評価			
16	ボランティア受け入れ等、地域との関わりを大切にしている	30年度	A	B	C
			43	6	0
		元年度	88%	12%	
			49	3	0
比較・考察			+6%		
17	関係機関との連携を適切に行っている	30年度	A	B	C
			41	8	0
		元年度	84%	16%	0%
			49	3	0
比較・考察			+10%		
18	地域の福祉ニーズを把握したうえで、事業・活動が行われている	30年度	A	B	C
			38	11	0
		元年度	78%	22%	0%
			43	6	3
比較・考察			+6%		
○よくわからない項目です。					
利用者本位の福祉サービス		評価			
19	利用者を尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取り組みを行っている	30年度	A	B	C
			47	2	0
		元年度	96%	4%	0%
			46	6	0
比較・考察			-6%		
20	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している	30年度	A	B	C
			38	11	0
		元年度	78%	22%	0%
			37	13	2
比較・考察			-3%		
○マニュアル等であってもプライバシー保護等不十分な点を感じます。 ○配慮は行っているが、マニュアル化まではなされていないと思う。 ○個室化や一人になりたい時などのスペース確保は、行えている所と、行えていない所があると思われる。					
21	利用者満足の向上を意図した仕組みを整備し、取り組みを行っている。	30年度	A	B	C
			41	8	0
		元年度	84%	16%	0%
			42	10	0
比較・考察			-3%		
○自治会等、すべての意見が反映できているか難しいところもある。					

22	相談・苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知・機能している		A	B	C
		30年度	42	7	0
			86%	14%	0%
		元年度	35	16	1
68%	30%		2%		
比較・考察		-18%			
23	施設内で虐待事案発生時の対応方法などを具体的に文章化している		A	B	C
		30年度	43	6	0
			88%	12%	0%
		元年度	50	2	0
96%	4%		0%		
比較・考察		+8%			
24	施設内で虐待事案が発生した場合の再発防止策等を、具体的に文章化している		A	B	C
		30年度	44	5	0
			90%	10%	0%
		元年度	41	11	0
89%	21%		0%		
比較・考察		-1%			
25	利用者からの意見等に対して具体的に対応している		A	B	C
		30年度	42	6	1
			86%	12%	2%
		元年度	36	16	0
70%	30%				
比較・考察		-16%			
サービスの質の確保			評価		
26	サービスの内容について、定期的に評価を行う体制を整備している		A	B	C
		30年度	42	7	0
			86%	14%	0%
		元年度	49	3	0
94%	6%		0%		
比較・考察		+8%			
27	評価の結果に基づき、組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て、実施している		A	B	C
		30年度	43	6	0
			88%	12%	0%
		元年度	47	5	0
91%	9%		0%		
比較・考察		+3%			

28	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化され、サービスが提供されている	30年度	A	B	C
			43	6	0
		元年度	88%	12%	0%
			48	4	0
比較・考察			92%	8%	0%
			+4%		
29	利用者に関するサービスの実施状況の記録が適切に行われている。それらについての管理体制が確立している	30年度	A	B	C
			46	3	0
		元年度	94%	6%	0%
			48	4	0
比較・考察			92%	8%	
			-2%		
サービスの開始・継続			評価		
30	利用者の希望するサービスを尊重し、開始にあたって適切に説明し、同意が得られている	30年度	A	B	C
			46	3	0
		元年度	94%	6%	0%
			46	6	0
比較・考察			89%	11%	0%
			-5%		
31	事業所の変更、家庭への生活移行等にあたり、サービスの継続性に配慮した対応を行っている	30年度	A	B	C
			43	6	0
		元年度	88%	12%	0%
			45	6	1
比較・考察			87%	11%	2%
			0		
サービス実施計画の策定			評価		
32	適切なアセスメントに基づき、サービス実施計画が策定されている	30年度	A	B	C
			45	4	0
		元年度	92%	8%	0%
			51	1	0
比較・考察			98%	2%	0%
			+6%		
33	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている	30年度	A	B	C
			45	4	0
		元年度	92%	8%	0%
			51	1	0
比較・考察			98%	2%	0%
			+6%		

利用者の尊重		評価			
34	職員の接し方について、利用者をひとりの個人として尊重する取り組みを行っている	30年度	A	B	C
			35	13	1
		元年度	72%	26%	2%
			40	12	0
比較・考察			+5%		
35	利用者の主体的な活動を尊重している	30年度	A	B	C
			38	11	0
		元年度	78%	22%	0%
			38	14	0
比較・考察			-4%		
36	利用者の自力で行う日常生活上の行為に対する見守りと支援の体制が整備されている	30年度	A	B	C
			35	14	0
		元年度	71%	29%	0%
			40	12	0
比較・考察			+6%		
日常生活支援		評価			
37	食事は利用者の嗜好を考慮した献立を基本として美味しく楽しく食べられるように工夫されている。またその内容がサービス実施計画に反映されている	30年度	A	B	C
			46	3	0
		元年度	94%	6%	0%
			48	4	0
比較・考察			-2%		
38	喫食時間に配慮している	30年度	A	B	C
			41	8	0
		元年度	84%	16%	0%
			42	9	1
比較・考察			+3%		
39	入浴は利用者の障害程度や介助方法など個人的な事情に配慮し、希望に沿って行われている	30年度	A	B	C
			38	11	0
		元年度	78%	22%	0%
			44	8	0
比較・考察			+7%		

		A	C		
40	浴室・脱衣場等の環境は適切である	30年度	37 78%	11 22%	
		元年度	34 65%	18 35%	
比較・考察	<p>○浴室、脱衣場広さと部屋の温度を保つ為のエアコンの設置が十分でないように思います。</p> <p>○脱衣場に置くタイプの暖房器具があると良いと思います。</p> <p>○明和寮は改善しないとだめだと思います。</p> <p>○脱衣所ドアを開けると廊下から丸見えになってしまう。</p> <p>○温度管理は不十分だと思います。</p> <p>○特に明和寮は改善すべき所が多いです。 沢山ありすぎて、優先順位がわからない。</p> <p>○浴室・浴槽内も利用者によっては使いにくい(平和寮)</p> <p>○浴室については段差が高いため、高齢の利用者さんについては大変であると思います。</p>		-13%		
41	排泄介助は清潔で快適な環境の中で行われている。	30年度	A 39 80%	C 10 20%	
		元年度	30 58%	22 42%	
比較・考察	<p>○トイレがカーテンのみの所があり、利用者さんのプライバシーが守れていないところがあります(自分でカーテンを閉めることが出来ない方や、他利用者に開けられる等)</p> <p>○清潔を保つよう配慮はしているが、ハード面で快適な環境ではないと思う。</p> <p>○明和寮のトイレは段差があり、使いづらいです。</p> <p>○明和寮のトイレは車いすの乗り入れがしにくい、狭い。</p> <p>○身体状況に応じた設備ではない。汚れた場合すぐに対応できる時と、出来ない時がある。</p> <p>○トイレが汚れた場合すぐに対応できるようにしているが、できていない場合がある。利用者の身体状況によっては設備が不十分な面がある。</p> <p>○清掃はおこなわれているが、汚れている場合があり、気づいたら清掃するようにしている。</p> <p>○冷暖房設備がありません。</p> <p>○トイレについては、せまいため車いすを使用されている利用者さんについては移乗・移動等大変だと思います。</p>		-22%		
42	利用者の好みや個性を尊重し、清潔で適切な衣類の選択を支援している	30年度	A 41 84%	B 8 16%	C 0% 0%
		元年度	36 70%	16 30%	0% 0%
比較・考察	<p>○利用者の希望、意思決定支援は難しい面が多いが、くみ取る方法を考えていかなければと思います。</p> <p>○利用者の好みと年齢や場に応じた服装の選択のバランスは難しいなど感じています。</p> <p>○購入や着替えの希望の対応などは行えているが、本人が好みの衣類や年齢に応じた衣類ではないことがある。</p>		-14%		
43	理髪店や美容院の利用について、利用者の好みを尊重した支援を行っている	30年度	A 34 70%	B 14 28%	C 1 2%
		元年度	38 73%	13 25%	1 2%
比較・考察	<p>○一部の利用者の方は美容院などを利用しているが、大多数の方はそうではないと思う。髪をのばしたいなどの意見があるかもしれないし、その人に似合う髪型を支援者が考えることも必要だと思う。</p>		+3%		

低水準

44	安眠できるように配慮している		A		C
		30年度	41		8
			84%		16%
		元年度	43		9
			83%		17%
比較・考察	○食堂で寝てもらわないといけない方がいる。 ○一人部屋ではないので、常に安眠といった状況ではないと思います。		-1%		
45	必要な時、迅速かつ適切な医療が受けられる		A	B	C
		30年度	41	8	
			84%	16%	0%
		元年度	49	3	
			94%	6%	0%
比較・考察			+10%		
46	内服薬・外用薬等の扱いは確実に行われている		A		C
		30年度	49		0
			100%		0%
		元年度	52		0
			100%		0%
比較・考察			0		
47	余暇・レクリエーションは利用者の希望に沿って行われている		A	B	C
		30年度	36	12	1
			74%	24%	2%
		元年度	36	16	0
			69%	31%	0%
比較・考察	○できるだけ希望には沿えるようにしているが、みんな平等にという感じではない。 ○時間や職員数の問題でなかなか希望に沿えないことがある。		-5%		
48	外泊(帰省)は利用者の希望に沿って行われている		A	B	C
		30年度	36	13	0
			74%	26%	0%
		元年度	43	9	0
			83%	17%	0%
比較・考察			+9%		
49	預り金について、適切な管理体制が作られている		A	B	C
		30年度	48	1	0
			98%	2%	0%
		元年度	52	0	0
			100%	0%	0%
比較・考察			+2%		
50	新聞・雑誌の購読やテレビ視聴について、利用者の意志や希望に沿って利用できる		A		C
		30年度	49		0
			100%		0%
		元年度	49		3
			94%		6%
比較・考察			-6%		

51	嗜好品(タバコ、酒等)については、健康上の影響等を考慮した上で、利用者の意志や希望が尊重されている	30年度	A		C
			47		2
		元年度	96%		4%
			50		2
			96%		4%

比較・考察			0		
-------	--	--	---	--	--

52	社会適応訓練等に関しては、利用者の状況に応じた支援を行っている	30年度	A	B	C
			41	8	0
		元年度	84%	16%	0%
			43	9	0
			83%	17%	0%

比較・考察			-1%		
-------	--	--	-----	--	--

施設・設備		評価		
-------	--	----	--	--

53	施設・設備に関して、利用者や来所者が利用しやすいように配慮されている	30年度	A	B	C
			28	21	0
		元年度	57%	43%	0%
			22	28	2
			42%	54%	4%

比較・考察	<p>○車いす利用の方も多くなり、段差(小さな)が移動の妨げとなっているところがあると思います。雨天時の移動にも、配慮した屋根等あればと思います。</p> <p>○明和寮はちょっとずつでも良いのでどうか改善してください。お願いします。</p> <p>○受け入れるだけのスペースが十分ではない。</p> <p>○ハード面で難しいところもあると思うが、浴室やトイレ等の段差は、今後体力や機能低下してきた利用者には危険が伴ってくると思う。</p> <p>○設備上の課題として、利用者の動きに合っていないトイレや段差等が多く、今後介護度が上がるにつれて、大変な点が多くあると思います。</p>		-15%		
-------	--	--	------	--	--

低水準

第二大江学園 令和元年度 自己評価について【考察】

支援向上委員会

令和元年度実施分の第二大江学園自己評価について、集計結果を受け考察を行い次年度以降の取り組みに繋げることとする。

実施期間:令和元年 11月18日～11月29日

対象:第二大江学園職員(非常勤を含む)52名 配布:52部 回収:52部

○自己評価集計結果に基づき、数値的に低水準な項目と、前年度比較において増減の大きかった項目について、いったんの考察を行う。

【低水準の項目】・・・B、及びCの合計が40%以上の項目を指す。

【 】内はB及びCの合計%(悪い数値)

4番・・・「事業計画の策定が組織的に行われ、利用者・職員に周知されている」【50%】

9番・・・「人事考課が客観的な基準に基づいて行われている」【41%】

41番・・・「排泄介助は清潔で快適な環境の中で行われている」【42%】

53番・・・「施設・設備に関して、利用者や来所者が利用しやすいように配慮されている」【58%】

○昨年までは過半数の答えがAではないものを低水準としていましたが、今回はBCの合計で40%以上になるものを低水準としています。例年常態的に悪い項目が続きますので、これまでよりも厳しい判断基準にしています。今回は上記の4項目(4番、9番、41番、53番)が低水準で挙がっています。4番、9番は管理者向けの課題。41番、53番は設備面での課題として捉えられます。特に53番に関しては年々悪化しています。老朽化という点では当然悪化するの理解できるのですが、第二大江学園の利用者の高齢化と介助の必要性に高まりに対して設備面での改善対応が行えていないと感じます。特に明和寮等平成元年に建った建物については段差解消や、スペース確保等の改善は急務と考えられます。

【変動が大きかった項目】・・・10%以上増の項目を指す(昨年は30%以上)

【 増 】

6番・・・業務の質の向上や、効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している(63%)+14%

14番・・・職員が支援等に関する悩みを相談することのできる体制を整えている(96%)+16%

15番・・・災害時・事故・感染症等の緊急時における、利用者の安全確保のための体制が整備されている(87%)+14%

17番・・・関係機関との連携を適切に行っている(94%)+10%

18番・・・地域の福祉ニーズを把握した上で、事業・活動が行われている(78%)+36%

22番・・・相談・苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知・機能している(86%)+33%

25番・・・利用者からの意見等に対して具体的に対応している(86%)+33%

45番・・・必要な時、迅速かつ適切な医療が受けられる(94%)+10%

47番・・・余暇・レクリエーションは利用者の希望に沿って行われている(74%)+31%

○昨年度はこの【増】の項目についてはあまりにも数値の改善が著しく、30%以上の改善に絞っても14項目が挙がっていた(おそらく記名式にしたため)。今回は10%以上の改善があった項目に注目して、上記9項目が挙げられた。

【変動が大きかった項目】・・・10%以上減の項目を指す(去年はゼロ)

【 減 】

11番・・・職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている(77%) $-$ 11%

22番・・・相談・苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知・機能している(68%) $-$ 18%

25番・・・利用者からの意見等に対して具体的に対応している(70%) $-$ 16%

40番・・・浴室・脱衣所等の環境は適切である(65%) $-$ 13%

41番・・・「排泄介助は清潔で快適な環境の中で行われている」(58%) $-$ 22%

53番・・・「施設・設備に関して、利用者や来所者が利用しやすいように配慮されている」(42%) $-$ 15%

○昨年度はこの大幅減の項目はゼロであった。今回は上記の6項目が挙がっている。

◆平成30年度の自己評価結果をうけて、令和元年度内での取り組みとして、大江学園で
取り上げた6番の項目と第二大江で取り上げた14番の項目は大幅な改善が見られてよかった。

前年度は記名式にしたことにより、数值的に大幅な改善が大きい結果であったが、今年度
はその「反動」もあってか、改善した項目が減少し、悪化した項目が増えている。

ただ、今回の結果は「反動」ということも一因としては考えられるが、評価として冷静に客観的
な捉え方が出来ているようにも感じる。各職員が責任をもって意思表示を行えているように
なってきた印象である。

「低水準」の項目でも一部述べているが、40番、41番、53番のような設備面に關わるような
項目については、改善の検討を随時で行っていけるようになりたい。寮を建て直すというこ
とが困難であることは皆が理解できるが、その分現状で改善の余地がある部分については
積極的に改善を行う必要がある。設備は利用者の生活の質の確保に直結することもさること
ながら、そこで働く支援者のモチベーションにも大きく關わるものである。合理的配慮のもと
適切に対処していきたい。

人材難の状況を明確に感じているところである。良い人材(人財)を確保するためには
本当に様々な努力が必要である。そこで働く職員が生き活きとし、利用者と共に充実した生活
を送る姿を内外に示していくことが、本当に大切なことである。乗り越えるべき課題は沢山あり
もはやどれから手を付けるべきかもわからなくなりつつあるとも感じる。将来的に健全に事業
を継続出来ていくかどうか、今が最も重要な時期であることを認識しておかないと、「その時」が
来てからでは手遅れになってしまうという危機感を感じている。大切なのは人なんだと改めて
感じています。

- 重度障がい者が快適で自由な生活を送れること。
- 実習生や見学者が「働きたい」と思える環境であること。
- 実習生や見学者の心を打つ支援が行えること。
- 今居る職員を大切に思い、向き合うこと。

文責:渡辺弘史

※第二大江学園 各部署掲示をもって「公表」することとします。